

ICAアジア太平洋地域協同組合 青年セミナー2004 報告

海外

論文 &

レポート

2004年9月5日～7日 in マレーシア

渡口政也（労協センター事業団九州事業本部）

開催に至る経過

ICAでは、1995年のICAマンチェスター大会で新協同組合アイデンティティを採択し、青年と地域社会を重視していく確認し、世界的に青年の参画活動の促進をよびかけています。

ICAアジア太平洋地域では、キャンパスセミナー・キャンパスコープセミナーを積み重ね、東京（2001年）にて、「協同を志向するリーダー、新世紀をリードする」をテーマに協同組合に関わる青年が集まり、20世紀の協同組合の到達点や課題、問題意識を出し合い、青年が主体的に21世紀にどのような協同組合を作りたいのか、目指したいのかを討議し、以下のアクションプランを作成しました。

1. 青年の活動を継続する【次回マレーシア（候補）で開催】
2. 参加組織を基礎に、アジア太平洋地域の「ICA青年ネットワーク」を発足し、情報交換を進める
3. ICAアジア太平洋地域に「青年委員会」を創設する
4. ICAアジア太平洋地域に青年活動基金を創設する

ICAアジア太平洋地域協同組合青年セミナー2004開催

（以下は私の拙い英語力で理解した範囲なので解釈が間違っているかもしれませんが、ご了承ください。ICA事務局より報告集が出るとも思いますので、後日改めて報告させていただきます。）

前回のアクションプランに基づき、マレーシア（クアラルンプール）にて、2004年9月5日～7日の日程でICAアジア太平洋地域青年セミナー2004が開催されまし



メイン会場

た。

参加国(参加者のべ230人)はマレーシア、インドネシア、シンガポール、インド、タイ、フィリピン、イラン、スリランカ、北米学生協同組合(NASCO)、日本。日本からは、大学生協(学生委員11名)と労働者協同組合を代表して渡口が参加しました。

「コープ ユース:変化する環境に参画しよう」をメインテーマに、青年の巡る現在の課題、チャレンジを明らかにし、アジア太平洋地域における全種類の協同組合の青年活動発展のためのビジョンを3日間かけて討議しました。

初日の主催者挨拶にて、「セミナーを通し、社会が変革し続けているなかで、青年がこの社会に対してどう役割を果たすのか、また協同組合の目的・意味(自分の中に価値を見出す)を理解し、協同組合で働く利点・一人でやるよりも皆でやることに有利性がある(それが協同組合である)ことを見つけ出してほしい。様々な国で取り組んでいる事例を吸収し自国に帰り生かしてほしい」と挨拶されました。基調講演(マラヤ大学副学長)では、以下の点を提起されました。

- ・青年というのは、利用されるのではなく将来を自分自身で創造し、1歩1歩進んでいき未来を自分で勝ち取らなければいけない。
- ・変化に対する精神を持ち続ける(社会変革を担う)



メイン会場

セミナーに参加し文章を読むだけでなく、互いに交流し協同することによりビジョンを持たなければいけない

- ・協力・協同の力で、ここを通わず、共通の利益を作り出す。

国・時間を越えて協力・協同で社会的な組織(協同組合)を作る

- ・協同組合の理念を実際の生活の場で活かさなければいけない

経験・理解・目的を共通の思いで達成させる

- ・過去を見直し、未来へ向かう

協同組合のルーツを見直す(原点に立ち返る)

将来 6000万人の組合員をどう結ぶのか?

協同組合は起業家組織(仕事をおこす)にならなければいけない。

それを支援する資金も作りださなければ



ばいけない

分科会の様子

以上の提起を受け、各国報告(カントリーレポート)を行いました。今回は、ほとんどが大学生協からの参加者で、大学における様々な取り組み(売店・ランドリー・銀行・送迎・旅行・ハウジング・平和活動・社会活動等)など、国によって様々ではありますが基本的には、組合員(学生)自らが自らのニーズを掘り起こし、組合員が中心となって運営に関わっている様子が報告されました。また、国によっては学生が組合員になれない・女性差別があるなどの問題点、また厳しい経済状況の中で就職率の悪化など深刻な悩みが報告されました。

議論をさらに深めるため、以下の3つのサブテーマが設定され以下の3つの分科会に分かれました。

1) 協同を通じて、起業家精神をもった

仕事おこしを進めよう

- 2) 学生の成長に貢献するキャンパスコープの活動を考え、進めよう
- 3) コミュニティーの発展に貢献する青年の活動を進めよう

私は、分科会1)で、議論に参加しました。そこで出された論点は以下の通りです。

起業する問題点として

- ・リーダーの問題(先導する力の欠如) 生協に対する利益の意識が足りない。
- ・ビジネスチャンスが見つけれられない(どういった仕事があるのか)
- ・資金が無くて、スキルを上げる教育やサポートができない
- ・起業の仕方がわからない

解決策として

- ・IT教育(地域の人にも広げる)
- ・外部(ICA)からの資金やサポートが必要
- ・生協の中にニーズを掘り起こす調査をする

上記に対し、ヘルパー講座を通じて地域の人たちと地域のニーズを掘り起こし、地域のニーズを担う地域福祉事業所作り、東京中部事業所の取り組み、青年委員会の取り組みを報告しました。関心を得ることはできましたが、どうしても自分たちの世界(学校内)から地域に目を向けて考えることができず自分

たちの利益が優先し、また、他を当てにし受身になってしまっていたのが残念でした。

全体として（各分科会報告を聞いて）、問題に対して受身ではあっても、皆の議論を聞いて、真剣に考え解決策を見出そうとする姿には感動しました。もの事に対し真正面から接しているからこそ真剣になれるのだろうと思うし、私たち労働者協同組合の青年も見習わなければならない姿であると思います。

分科会のまとめとして

青年執行委員会より

1. 自国に帰り国内でこのようなセミナーの開催する
2. e-mailにて各国の活動を伝える活動をしていく
3. ICA 青年基金を創設する
4. 自発的な教育・セミナーの開催
自分自身で計画を立て、やりたいことがあれば他を当てにせず自分自身で作ります。計画を作成しICAに支援をお願いします。
5. 組合員の意識を高める活動を行う
6. 今後は、隣接する国どうして交流・研修を行い、全体では数年に1回あつまり研修を行っていく

と報告されました。また、

ドングレイ博士（インド）より

協同組合・社会は変化し続けているので、我々も変化し続けなければならない

し、また、青年はもっと自信をもって生きほしい。このセミナーは色々な国、協同組合の人と接することにより、いろいろな意見を聞くことで、さらに知識が広がり自己も高まる。

この知識を活かし、青年の活動だけでなく、協同組合全体のことを考えそして行動する。自国に帰りここで得た知識を他の人にも伝えてほしい。

と、まとめがありました。

最後にICA事務総長イアン・マクドナルド氏より、ICAの紹介の後、ICAとして青年が活躍できる場を作ること、青年の活動を支援してことを約束し最後に青年に対し「待っているのは駄目、自分自身で考え、行動を起こし、自分自身で道を切り開いてほしい」とスピーチがあり閉会しました。



分科会の様子

セミナーに参加して

労働者協同組合を代表して1人で行くというプレッシャーと、すべて英語でコミュニケーションしないといけないという不安で、出発前日までは胃が痛い毎日が続きました。マレーシアに着いて早々、迎えに来るはずのバスが来てなくて慌てましたが、辞書片手にいろんな人に道を聞きながらどうにか会場までたどり着きました(マレーシア人に近い顔立ちをしていたので、親近感が湧いて良かったのではないかと思います)。

今回参加するにあたり、実は一番不安だったのが食事でした。私はかなりの偏食で3日間食事抜きかと心配しておりましたが辛い・甘いはありましたが美味しくいただくことができました。

セミナーに参加して残念であったのが、ほとんどが大学生協からの参加者で他の協同組合からの参加が無かったことで、どうしても大学生協の話が中心になり私自身は物足りなさを感じました。しかし、同じ協同組合なので悩み・課題は共通しており、参考になったり、考えさせられる事例がたくさん報告されました。私とひとまわりも違う人たちが、平和について考え行動している報告等を聞くと、私や労働者協同組合で働く同じ世代の足りない部分を見つめなおす機会となりました。また、私たち労働者協同組合が目指す方

向性が間違っていないことも確信しました。

主催者挨拶・基調講演・ICA事務総長の話に共通していた、また今回のテーマでもある「社会が変革し続けている中で、青年がこの社会に対してどう役割を果たし、社会を変革していくか・変革に対する精神を持ち続ける」こと、社会変革を担うということが労働者協同組合・青年委員会・組合員一人一人が課せられた課題・方向性ではないかと思えます。あのセミナーで真剣に熱く議論していた青年のように、労働者協同組合の青年・組合員一人一人が真剣に物事に対し真正面からぶつかり考え、地域社会に目を向けないと、日本の労働者協同組合は世界の協同組合のみならず日本の協同組合や社会から取り残されてしまうであろうと思えます。

全組合員一丸となって心の通う・地域になくはない労働者協同組合を作り上げたい。

最後に、セミナーに参加させていただいた組合員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。